

33 清光庵水神様通り (せいこうあん すいじんさまどおり)



富屋町

掛舞線と中部電力芳川変電所間の通りで、付近には天竜川で難破した船員を祭る水神様がある。清光庵は字名で、富屋敷とともに富屋町を形成している。



地域愛称マップ

かわわ

河輪地区

34 富屋中道 (とみやなかみち)



富屋町

町北部、富屋敷の中央を南北に抜ける道路で、弘誓寺に通じている。この道は屋敷が入り込み道路の拡幅が困難なため、いまだに細い道のまま使用されている。



35 富屋敷表通り (とみやしき おもてどおり)



富屋町

町の中央を南北に縦断する通りである。昔から、町内の幹線道路として、また、五島方面へ抜ける唯一の通りとして広く利用されてきた。



36 水遊び跡 (みずあそびあと)



富屋町

子供たちの水遊び場の跡である。昔、付近には「いぼり」と呼ばれる水路が流れ、ひざぐらいの深さだった。子供たちは、これを掘り下げ、水遊び場としていた。



37 河輪村役場跡 (かわわむらやくばあと)



東町

河輪村役場は、最初、現在の河輪小学校校庭の中にあった。昭和 11 年 3 月には現在の河輪会館の地に移転し、26 年 3 月、浜松市に合併するまで、この地に置かれていた。



38 旧掛塚街道 (きゅうかけつかいどう)



西町

明治末期、掛塚街道（現国道 150 号線）ができるまで、掛塚街道（往還と呼んでいた）として浜松と掛塚を結び人馬の往来でにぎわった。また、お客を乗せた馬車が運行された主要道路であり、沿道の商店などが繁昌したという。



河輪地区六か町の由来

西町 (にしまち)

慶長六年浜松藩領、西とは天竜川支流の古い川の西側にあった。この地の東側に堤の名残があり、この一帯の水田を昔は川田と呼んだ。鎌倉時代の建治元年（1275 年）龍雲山林泉寺が創立された。

旧蒲島村 旧蒲島村は古い天竜川の中州の土地に蒲が生い茂っていたからだろう。伝説では、川上より蒲であんだむしろに祠（ほこら）が乗って流れて来たので、村人がこれをまつり、氏神としたので蒲島というといわれている。昭和 26 年西町と合併。

富屋町 (とみやちょう)

慶長年間、蒲島から屋敷が飛んでいたため、「飛屋敷」といわれた。その後、村人が幸福を願って富み屋敷とした。戦国時代の文亀元年（1501 年）深海山弘誓寺開山、明治期に富屋敷学校が創設された。旧清光庵村 慶長 6 年浜松藩領、清光庵とは草庵の名である。昭和 26 年富屋町へ合併した。